

謎の円形道路 行田無線

伝えたい千葉の産業技術 100 選

登録番号	第061号
名称(型式等)	海軍無線電信所船橋送信所跡
所在地	千葉県船橋市行田2丁目5
竣工年	大正4(1915)年

選定理由

大正4(1915)年4月、東葛飾郡塚田村行田(現 船橋市行田)に船橋海軍無線電信所(行田無線)が開所しました。日露戦争以後、艦船の行動範囲の拡大に伴い、情報の発信や傍受など通信力の増強に大電力無線送信所が必要となったためです。無線電信所は半径400m、約16万坪の円形の敷地に真中に高さ200mの主塔、周囲に高さ60mの副塔が18基立ち並ぶ大規模なもので、当時最強と呼ばれたドイツのテレフンケン社製の送信機を採用し、通信性能は当時世界トップクラスでした。開所まもない同年7月にはハワイとの間で通信試験に成功し、8月から正式に軍用通信が開始されました。大正5(1916)年には逓信省の無線電信局が併設され、ハワイ経由でアメリカとの通信が開始しました。開局にあたり、大正天皇と米国ウィルソン大統領との電文交換も行われています。また、大正12(1923)年の関東大震災の際には、救援活動のための通信網の一翼を担うなど、完成当時、東洋一と呼ばれた電信所は、「日本の耳と口」として活躍しました。なお、同年「東京海軍無線電信所船橋送信所」に名称が改められました。

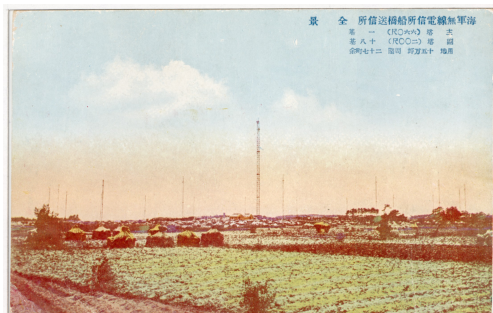
※海軍無線電信所船橋送信所の名称の変遷

大正4(1915)年	船橋海軍無線電信所
大正12(1923)年	東京海軍無線電信所船橋送信所
昭和10(1937)年	東京中央電信局船橋送信所
昭和12(1937)年	東京通信隊船橋送信所
昭和16(1941)年	東京通信隊船橋送信所船橋分遣隊

昭和10年代には、通信量の増大や通信技術の発達に伴い、主塔を中心に巨大な傘のように広がっていた鉄塔群も改修されることになりました。従来の円形敷地内に2基、その北側に新たに買収した敷地に4基、計6基の自立鉄塔を建てました。高さ182mの6基の鉄塔の間にアンテナ線を張った構造です。

太平洋戦争時、真珠湾攻撃部隊に対して「ニイタカヤマノボレー二〇八」の暗号電文を送信したことも知られています。戦後は進駐軍に接收されましたが、昭和41(1966)年に返還されました。その後、昭和46(1971)年から昭和47(1972)年にかけて解体され、敷地には行田団地や県立行田公園などが整備されています。行田公園内には「船橋無線塔記念碑」が建てられているほか、円形の敷地に沿って残された道路が送信所の記憶をとどめています。

なお、船橋送信所跡は、平成20(2008)年に、経済産業省より「情報伝達の質・量を飛躍的に拡大させ社会変革をもたらした電気通信技術の歩みを物語る近代化産業遺産群」の構成要素の一つ、「船橋市の無線通信関連遺産」として認定されました。



かつての行田無線塔全景 絵葉書



かつての行田無線主塔 絵葉書



船橋無線塔記念碑

協力：千葉県葛南土木事務所
船橋市郷土資料館

参考：「行田無線史 総集編」 滝口昭二著

「海軍無線電信所船橋送信所」絵葉書画像 船橋市郷土資料館所蔵

「行田無線塔 ～天に聳(そび)ゆる無電塔～」船橋市郷土資料館展示 配布資料